

5. 1963年冬春季の紀伊半島近海における異常海況

杉 浦 次 郎 (神戸海洋气象台)

(1) 本年1月の月平均気温は名瀬・宮崎・高知・潮岬で観測開始以来の低極を記録した(第1表)、この低気温が黒潮域の水温を低めたことは確かであろう。

第1表 本年1月の月平均気温

地 点	名 瀬	宮 崎	高 知	潮 岬	
1月平均気温の平年値 (1931~1960年平均)	14.3℃	6.8℃	5.2℃	7.4℃	
1963年1月	月平均気温	11.0	4.0	1.8	4.4
	全上偏差	-3.3	-2.8	-3.4	-3.0
1月平均気温の既往低極	極 値	11.5	4.0	2.5	4.5
	全上観測年	1918	1918	1945	1936
	観測期間	1896~1962	1886~1962	1886~1962	1913~1962

(2) 気象庁発行全国海況旬報の表面水温偏差図(1950~1959年平均基準)によれば、本年1月中旬から4月上旬まで本州南方海域に偏差-3℃をこえる低温域がみられた。

(3) 本年3月春風丸および拓洋の観測によれば、紀伊半島の南東沖に表面水温15℃以下の低温域が拡がっていた(第1図)。この低温域が1項の低気温の影響を受けたことは確かであろうが、しかしこのような低温域は範囲は本年程広くはないが去る1956、1957年2~3月にも認められた(第1図)ので、黒潮流軸の位置にも関係するものと思われる(5項に再述)。

(4) 第2図は黒潮主流部を代表するAますめと前項の低温域を代表するBますめについて既往各年2~3月の0, 100, 200m層平均水温および塩素量の変動を示したものである。本年3月の水温はBますめでは各層とも既往各年中最低であるが、Aますめではそれ程低くない。

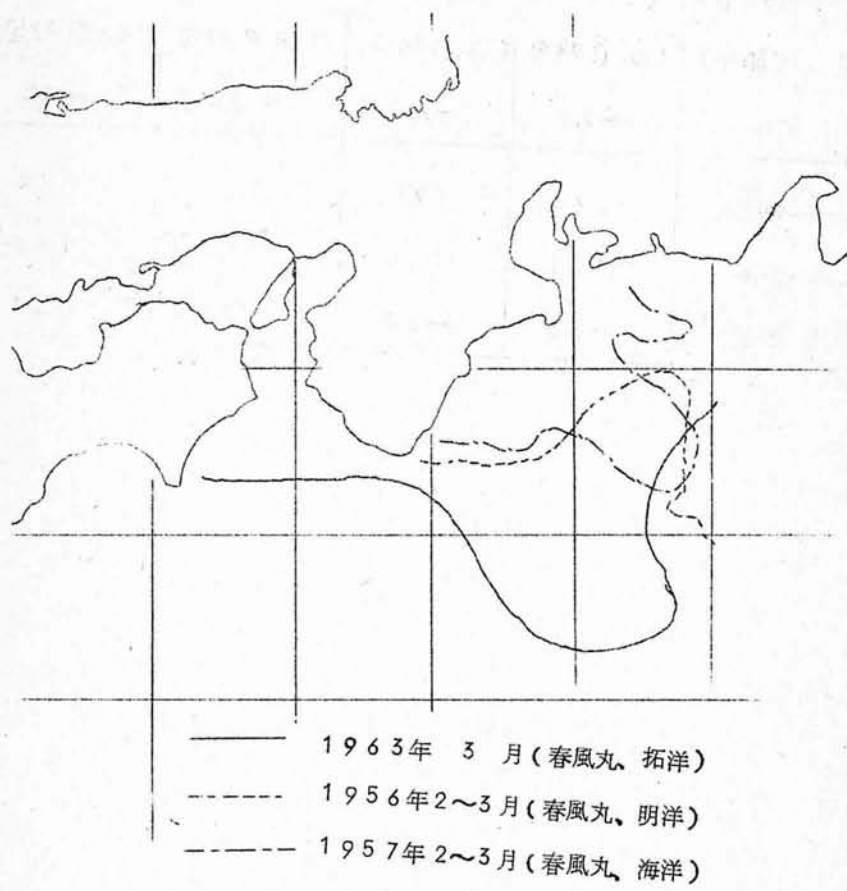
(5) 第2図を見ると、遠州灘沖冷水域が発達した'37, '38, '55, '60, '61, '62年にはA B両ますめの水温は差が少なく、逆に黒潮がほぼ東西に走っていた'52, '56, '57, '58年にはAますめに比しBますめの水温が低くなっていることが分る。そして本年は後者の型に属するものと思われる。

すなわち本年冬春季には遠州灘沖冷水域が衰弱したためにBますめに低温域が発生し、これが低気温ないし強い季節風の影響を受けて発達したものと考えられる。

(6) A・B両ますめの月平均表面水温の偏差について、本年2、3月の値を1911~1941年間の低極の値と比較すると第2表のとおりで、本年のBますめの偏差が著しいことが分る(戦前資料は神戸海洋气象台、戦後資料は気象庁海洋課による)。

第2表 月別、1°ますめ平均表面水温の低極値と偏差

ますめ		A ($\begin{matrix} 32 \sim 33 \text{ N} \\ 135 \sim 136 \text{ E} \end{matrix}$)		B ($\begin{matrix} 33 \sim 34 \text{ N} \\ 136 \sim 137 \text{ E} \end{matrix}$)	
月		2	3	2	3
戦前資料	平均値 (資料数) (1911~1941)	15.4 (456) (内12年欠)	16.0 (504) (内9年欠)	14.2 (1678)	14.7 (1812)
	低極値 (観測年)	12.6 (1938)	13.4 (1936)	11.8 (1926)	13.2 (1925)
	全上偏差	-2.8	-2.6	-2.4	-1.5
戦後資料	平均値 (1950~1959)	19.4	19.8	17.6	17.7
	本年の値	17.1	17.4	15.1	14.6
	全上偏差	-2.3	-2.4	-2.5	-3.1



第1図 表面15℃等温線分布図

第2図

各年2~3月

1°ます目平均水温・塩素量

